

◆ 今週のコメント

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は、1.39(93例)となり、3週連続で減少しています。
- ・ 百日咳の報告が4例(1歳, 2歳, 4歳, 20歳以上)あります。本年の累積報告数は12例で、年齢群別にみると、0～4歳が7例, 5～9歳が2例, 10～19歳が1例, 20歳以上が2例です。
- ・ マイコプラズマ肺炎の報告が、基幹定点より1例(定点当たり報告数 1.00)あります。
- ・ 急性脳炎の報告が、2例(男性 30歳代, 男性 40歳代)あります。病原体は、ヘルペスが1例, もう1例は不明です。
- ・ マラリア(熱帯熱)の報告が1例あります。本年初の報告で、推定感染地域は、インドネシア スマトラ島です。なお、平成22年は5例でした。

◆ 今週のトピックス: <水痘>

水痘の定点当たり報告数は、1.23(49例)で、先週より増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 四類: マラリア(熱帯熱) 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 五類: 急性脳炎 2例【1月以降の累積報告数 3例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	1.39	93
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.23	249
	② 水痘	1.23	49
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.08	43
	④ 伝染性紅斑	0.45	18
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.35	14
眼科	流行性角結膜炎	0.80	8

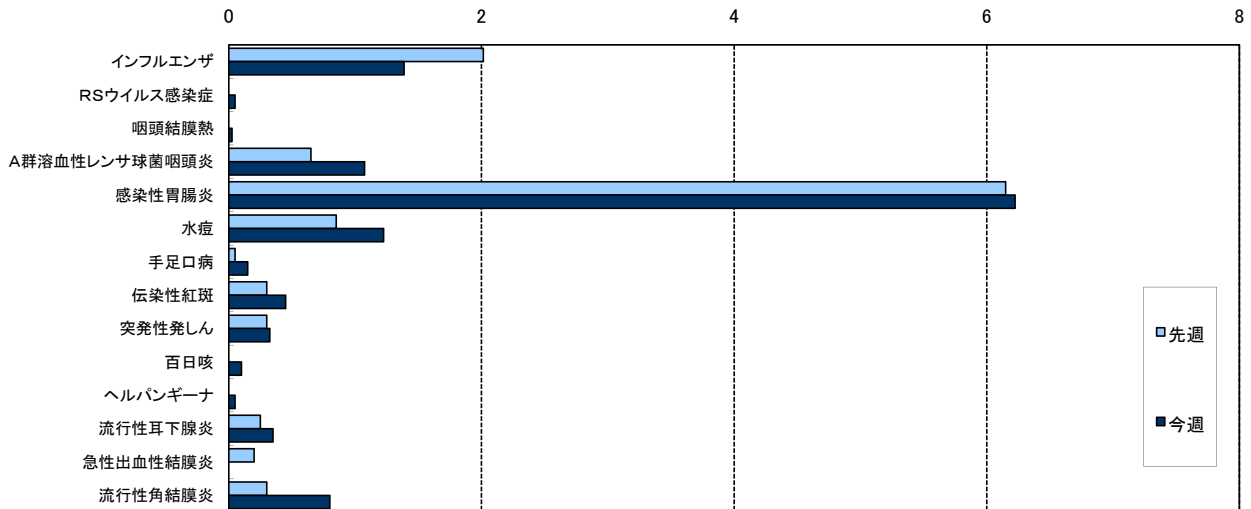
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <水痘>

(注) 京都市のデータは、平成23年5月19日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

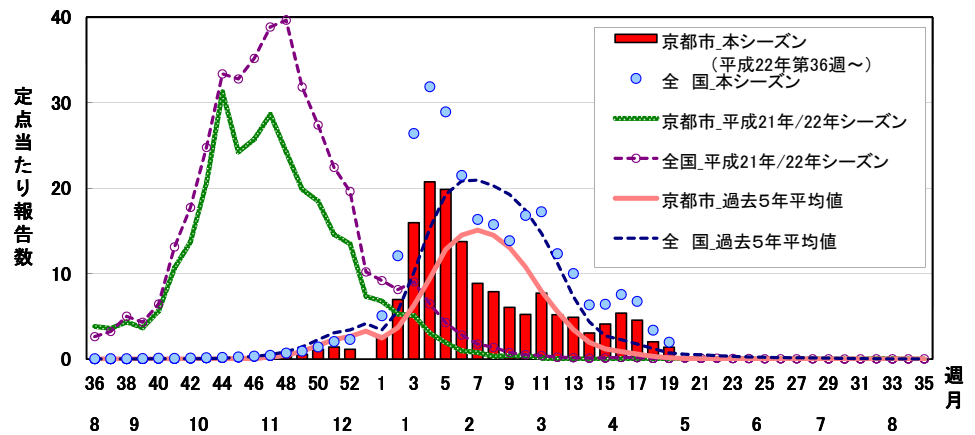
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第19週)と先週(第18週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

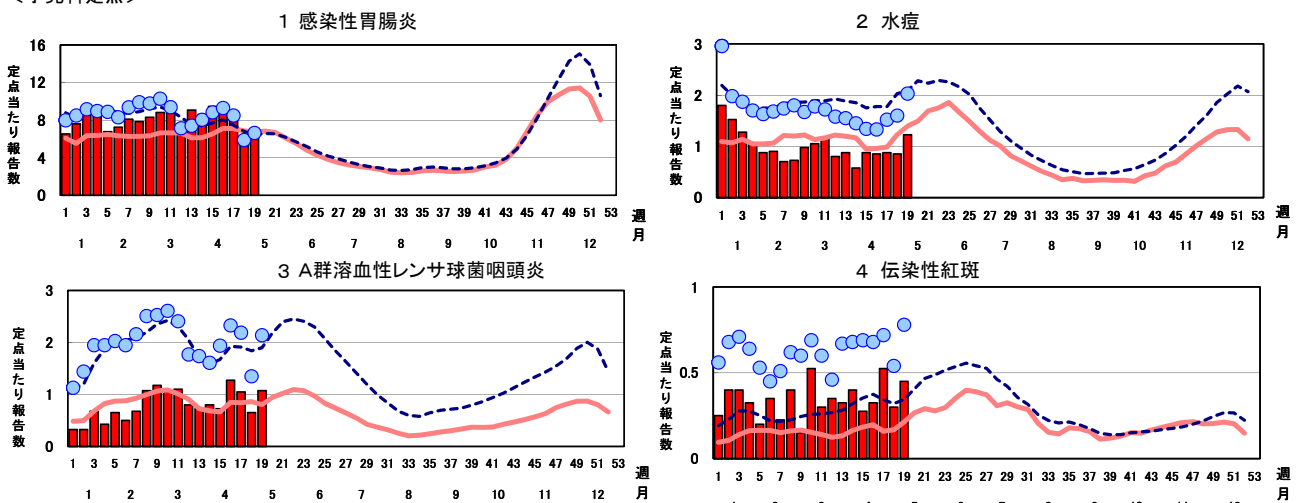
週	報告数(例)
第15週	275
第16週	360
第17週	305
第18週	135
第19週	93
累積報告数 (第36週以降)	10,108



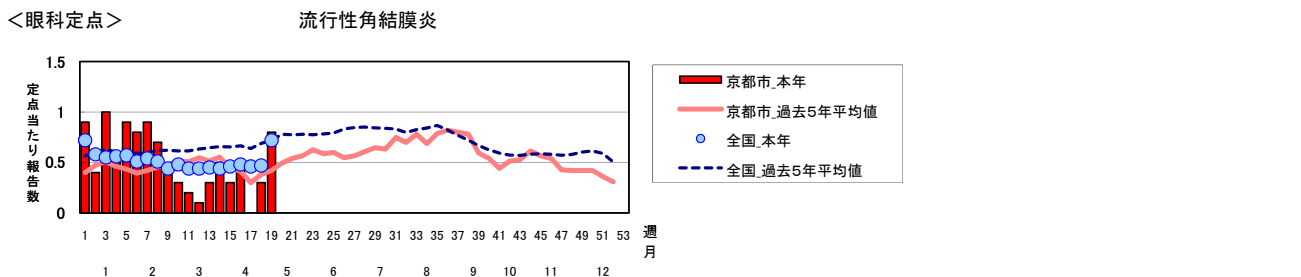
※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



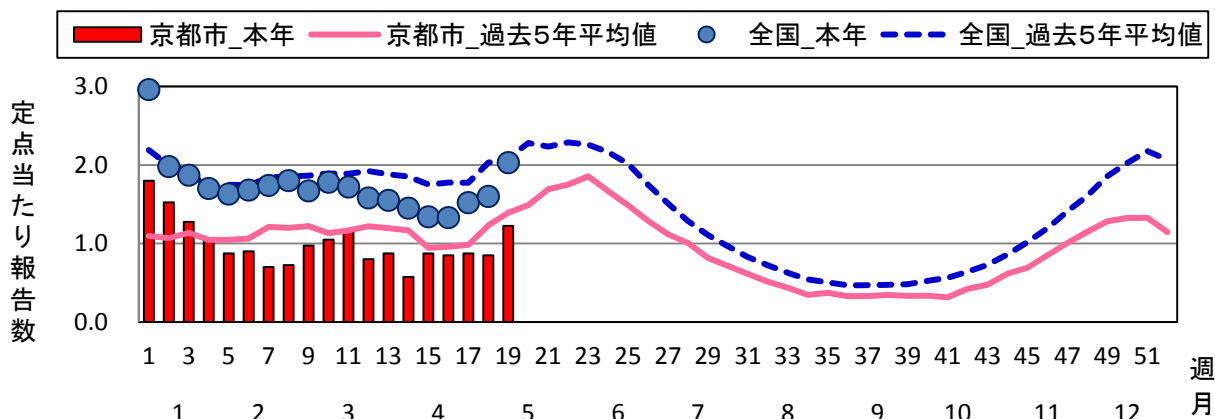
第19週(5月9日～5月15日)トピックス:<水痘>

水痘の定点当たり報告数は、1.23(49例)で、先週より増加しています。水痘の報告数は、例年、5月から6月にかけて増加しますので、今後の動向にご注意ください。

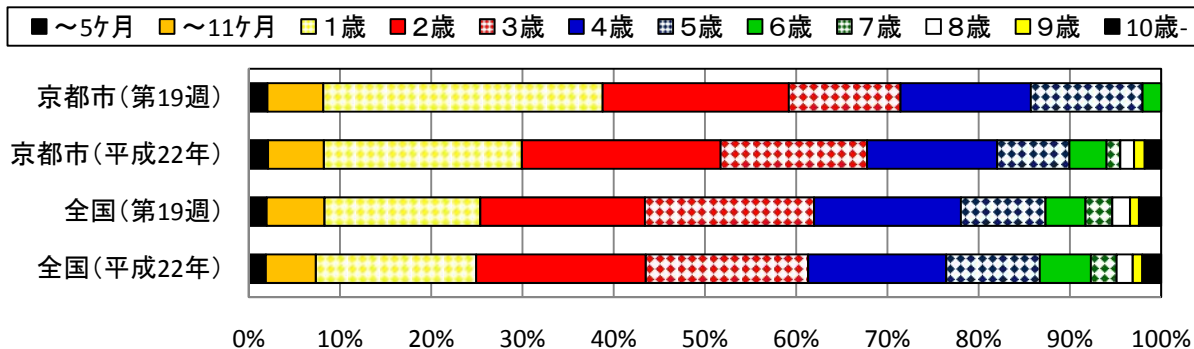
年齢階級別にみると、1歳が15例(30.6%)と最も多く、次いで2歳が各10例(20.4%)で、1歳～5歳で89.8%を占めています。

行政区別では、すべての行政区で報告があります。

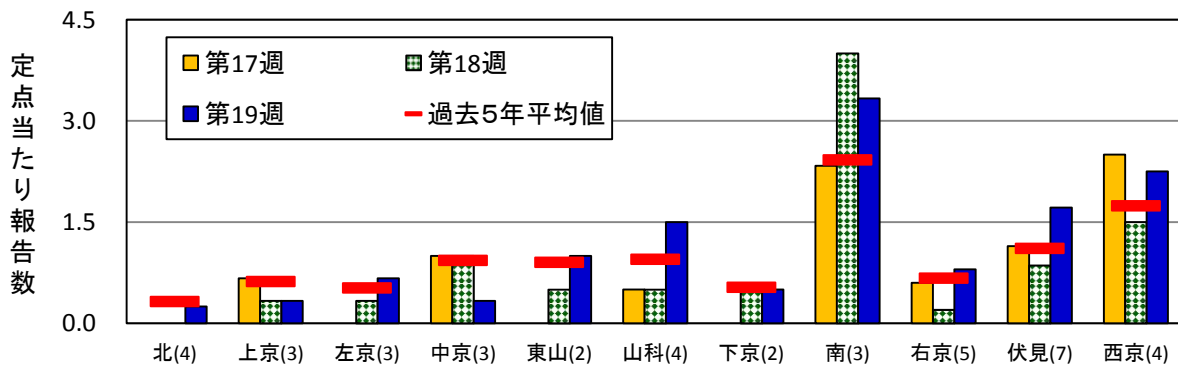
本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別定点当たり報告数の推移



行政区別定点当たり報告数の推移



* ()内は各区の定点医療機関数